



私たちは、技能に優れた鉄筋工事企業集団として、社会に貢献します。

POWER

Vol.
58

季刊誌パワー 発行所：公益社団法人 全国鉄筋工業協会 〒101-0046 千代田区神田多町2丁目9番6号田中ビル4階
TEL 03-5577-5959 FAX 03-3252-9170 〔平成30年1月1日発行〕

WINTER 2018

故 内山 聖会長 ご功績

略 歴

昭和17年11月22日生誕

平成29年10月13日死没（74歳）

昭和40年3月31日 東洋大学 社会学部 卒業

自昭和46年9月6日 (株)小黒組 入社

自昭和49年7月20日 同社 常務取締役

自平成5年4月1日 同社 代表取締役社長

自昭和22年2月25日 同社 代表取締役会長

主な団体、公職歴（至省略）

平成17年5月19日 (社)全国鉄筋工業協会 常任理事 就任

自平成19年5月16日 (公社)全国鉄筋工業協会 会長

平成9年5月28日 東京都鉄筋業協同組合 理事 就任

自平成16年5月21日 同上 理事長

自平成24年5月25日 同上 理事相談役

平成15年10月9日 関東鉄筋工業団体連合会 会長 就任

平成20年6月1日 (一財)建設業振興基金理事 就任

平成20年6月3日 (一社)建設産業専門団体連合会理事 就任

自平成22年6月1日 同上 副会長

平成19年5月18日 職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会理事 就任

自平成21年3月23日 同上 副会長

平成16年5月21日 東京職業能力開発協会理事 就任

自平成23年5月27日 同上 副会長

主な荣誉

平成10年6月11日 東京都知事より感謝状
(優良建設業者)

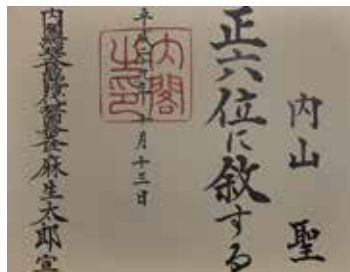
平成20年10月11日 東京都知事より産業振興功労賞

平成22年7月12日 国土交通大臣より大臣表彰
(建設事業関係功労)

平成23年11月3日 黄綬褒章受章

平成29年5月29日 国土交通省土地・建設産業局長より感謝状

平成29年11月21日 叙勲 旭日小授章 叙位正六位受章



月十日の閣議決定で正六位を叙位され、旭日小授章を受賞した。

故内山聖会長が、去る十月十三日に逝去されました。会長就任後の十年もの間、業界のリーダーとして大きな声と身体で鼓舞し続け、全鉄筋の集まりでは必ず「鉄

専門工事業者をけん引し、建設業界貢献の功績が認められ、十一月十日の閣議決定で正六位を叙位され、旭日小授章を受賞した。



筋は結束が命」と話し、同業者の結束を呼び掛けてきた。関係団体の役員を数多く兼任し、



ご冥福を心からお祈り申し上げます 合掌

が十一月二十日、東京都千代田区の帝国ホテルでしめやかに営まれ、ゆかりのある関係者約1700人が参列して祭壇に献花し、故人との別れを惜しんだ。参列者は業界関係にとどまらず、内閣や各省庁からも来臨した。全鉄筋の会員団体と企業も北海道や九州の全国から来会し、感謝の意を表した。



故内山聖会長の「お別れの会」

組合紹介

協同組合東京鉄筋工業協会

鉄筋工事業者の融和と、社会的・経済的地位向上を目指し昭和43年に東京鉄筋工業協会が誕生しました。それから49年が過ぎ、来年度には50周年を迎えます。現在の組合員数は正会員60社、賛助会員39社 計99社の組合員の皆さんに支えられ運営しております。

現在の活動状況は、5月の通常総会、年2回の定例会と新年賀詞交歓会の開催。各委員会（総務委員会、経営情報委員会、技能技術委員会、安全労務委員会）、部会（土木部会、青年部会）を隔月または3ヶ月ごとに開催し、各委員会・部会を通して情報交換・共有、勉強会の実施等、受注単価下落防止や技能労働者不足の対策、働き方改革などに、組合員が結束し鉄筋工事業者の発展に取り組んでおります。

技能技術集団を目指す鉄工協は、毎年『鉄工協 鉄筋技能大会』を開催し今年で3回目になります。大会では技術者が自身の技能・技術を発揮する機会の場になっており、出場選手の真剣に取組む勇姿が他の技術者の定着と技能・技術向上に繋がると信じ、技能技術集団の組合として継続していきます。

さらに、青年部会（25名）を中心に活動をしている工業高校への出前講座では、興味を持ってもらえるよう職人と生徒のコミュニケーションを大切にしており、生徒が鉄筋工業に興味を持ち、実際に入職した職人もおります。そうした工業高校出身の職人には、身近な先輩として出前講座に参加してもらい、入職促進の活動に協力してもらっています。さらに、交通刑務所や少年院への出前講座を行い出所後の生活基盤の確立へ協力しております。受講者から「全くわからなくても分かるようになって。仕事を選ぶには良い所だと思い、新しい道が出来たのではないかと思います。」（抜粋）と感想が寄せられており、入職に繋がればうれしいかぎりです。また、東京都の建設人材育成事業へ講師を派遣する等、担い手確保に向けて取り組んでおります。

12月1日から理事長の知念辰昇が全鉄筋の副会長に就任しました。これからは、全鉄筋副会長、また関東の代表として業界の発展に精力的に取組み活躍していけるよう、鉄工協組合員の団結力で知念理事長を支えていきます。

平成30年は鉄工協設立50周年、協同組合東京鉄筋工業協会50周年を迎えます。組合員みなさんや他団体様にご協力を頂き、50年の歴史を築くことができました。お力添えを頂いた皆様に心より感謝を申し上げます。

平成二十九年 秋季定例会 《雇用改善推進会議》開催報告

平成二十九年十一月二四日(金) 「三井ガーデンホテル千葉」

A. 定例会報告

一、開会の辞

全鉄筋副会長 館岡 正一

二、全鉄筋会長挨拶

全鉄筋会長 内山 聖代

三、来賓祝辞・挨拶

衆議院議員 自由民主党 中山泰秀様

一、会議

(1) 総会以後の事業報告並びに今後について 事務局

(2) 各事業委員会報告

技術・教育訓練委員長

副会長 館岡正一

経営委員長 副会長 岩田正吾

広報委員長 副会長 篠森義晴

実習生事業委員長

専務理事 武田美治

(3) 標準見積書「簡易版」の作成報告、普及について

(4) 就労人口調査、社会保険加入状況の纏め報告

(5) 各地区における受注単価・労務状況等報告 事務局

B. 講演

「建設業における働き方改革のポイント」

厚生労働省

雇用開発部建設・港湾対策室室長

吉野彰一様

1. 閉会の辞

全鉄筋副会長 岩田正吾



第27回(公社)全国鉄筋工事業協会 青年部全国連絡会議

鉄筋人

事業報告書

青年部代表幹事 赤澤栄徳

12月24日(金)幕張メッセで鉄筋 EXPO2017 が開催される中、第27回(公社)全国鉄筋工事業協会青年部全国連絡会議が同会場で開催され、170名もの同志が御集まりくださいました。ひとえに全鉄筋の皆様のご協力と青年部のご理解ご協力のおかげと、心より深く感謝申し上げます。

今回、次代を担う若手労働者がこの業界に希望と誇りの持てる働く環境を整備し確立させることを目的に、「年収600万の天井をブチ破れ!!」をタイトルとして、これからの鉄筋業界に求められる働き方改革について会議を行いました。

まずは現状把握と課題を調査するため、今年の7月に青年部を対象として実施した「働き方改革、賃上げ実施意向と現状調査」のアンケート結果を報告しました。アンケートは従業員の年収、休日、有給、残業時間などの実態を年齢別、地区別、全国平均に分類して定量化しました。また経営者側の働き方改革に対する取り組みや意識の度合いを回り、今後の対策や工夫している改善点などを集約することで、背景となる課題が地域差や地域の特徴で比較できるよう見える化にしました。結果からは年収600万円を達成させるためには40%以上の賃上げが必要で、現状の賃上げ率を考えると、10年以内に到達することは厳しいと言えますが、標準見積書が引き出す単価はそれに見合う数値であるため、その単価が適正価格での受注であると建設業界に認められて浸透し、すべての現場に適用できれば目標値までの賃上げは可能であり、また健全な企業体質が構築できると考えます。このような若手労働者に希望の持てる環境整備の確立が急務となっており、それが我々青年部の使命であるということ改めて再認識いたしました。

さらにディベート形式で、生産性向上・作業環境の改善・平均年収の底上げの3項目のテーマに絞り、ディベーターとコーディネーターを各地区青年部幹事が務めて討論を交わしました。ここ数年の連絡会議の抱りでもある全員参加型ディスカッションを取り入れるためSNSのLINEを活用しました。聴衆者全員に手元のスマートフォンやタブレットから青年部のグループへ参加していただき、討論を聴きながらコメントをもらいます。LINEの画像はスクリーンにも投影されているため、お持ちでない方でも確認ができる仕組みです。意見を出す人の関心がなくなり、誰でも気軽にコメントをあげることができることと、青年部幹事の結論が用意されたトップダウンと個々の判断材料から積み上げて結論を導き出すボトムアップの両方からテーマについて意見を収め上げ深掘りしていくことが狙いです。生産性向上については、施工効率の向上やミス・軽微な繋がる設計や仕様書の統一化、鉄筋産を半分に品質管理の簡素化すること、そして工場のオートメーション化などがあげられました。作業環境では、4週6休や週休2日制の導入についての意見があり、業界のイメージアップや若手雇用に関わる反面、現状の厳しい工程が更に厳しくなることや休日が増えることにより労務費や経費の向上が懸念材料になることがあげられました。平均年収500万円にすることについても建設業に対するイメージアップや若手の確保、従業員のモチベーションアップに関わるが、それだけの賃金単価が必要になることが大きな壁となりました。短い時間の中でも積極的な多数のコメントがあったため参加者全員で討論のできる会議となり、大変活発で有意義な討論会になったのではないかと思います。

最後に千葉県青年部の皆様をはじめとする関東青年部の皆様におかれましては、鉄筋EXPO2017の準備にお忙しい傍ら、素晴らしい設営をしていただきまして有難うございました。前年の雇用改善への取り組みにご尽力された内山副会長の想いを引き継ぎ、これからも鉄筋業界が「魅力ある産業」「誇りある仕事へ」と築かれていくことを祈念いたしまして青年部全国連絡会議のご報告とさせていただきます。

国土交通大臣表彰(建設事業関係功労)

平成二十九年七月十日

戸田 裕雄

(株)戸田鉄筋 社長 関西

町田 十九一

(株)町田工業 社長 長崎県

近 喜男

近鉄筋工業(株) 社長 新潟県

敬称略



平成二十九年 優秀施工者
国土交通大臣顕彰
青年優秀施工者土地・
建設産業局長顕彰
平成二十九年十月六日

建設マスター

森田 学

武田建設(株) 香川県

前田 輝明

(有)前田鉄筋工業 長崎県

木村 秀郎

飛田鉄筋工業(株) 鉄工協

松本 一馬

国井興業(株) 埼玉県

原 久仁男

宮尾鉄筋(株) 長野県

大津 進

正栄工業(株) 関西

水野 勝

宮本工業(株) 山口県

菊地 隆行

白沢鉄筋工業(株) 福島県

木下 善隆

(株)中鉄 関西

松田 稔

マツダスタイル(株) 愛知県

敬称略



第2回全国鉄筋技能大会

TETSU-1 GRAND PRIX

第二回目を迎えたTETSU-1 Grand Prixが鉄筋EXPOの会場である幕張メッセにて行われ、全国各地から予選を勝ち抜いた、腕自慢の「最強鉄筋工」が日頃の技を競いました。来賓には、国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課より、勝瑞智章専門企画官、(一財)建設業振興基金より内田俊一理事長をはじめとする多くの方々にも、鉄筋業のなせる技をご覧いただきました。当日、開場前には長蛇の列ができ、各地の応援団が、「我が代表」の勝利を願って熱い声援を送っていました。午前の部、午後の部と2回に分かれて競技が行われ、緊迫した雰囲気での会場で作業を行いました。規定時間の1時間20分より早く組み上げる選手もいて、プロの職人の技に、会場からも多くの拍手が送られました。代表37選手の競技の結果、最優秀賞「国土交通大臣賞」には関西代表・富田興業の谷口圭氏、2位「国土交通省土地・建設産業局長賞」に静岡代表・長友鉄筋工業の立野匡昭氏、3位「全鉄筋会長賞」には新潟代表・SUN興業の渡辺博一氏が入った。表彰式では、後援団体を代表して、内田俊一理事長のご挨拶では「活躍する皆さんが腕を磨き、後輩たちに大きな力を与え、若者に誇りを持てる建



鉄筋をテーマにした世界初の博覧会「鉄筋EXPO2017」が11月24日・25日・26日の3日間、千葉県千葉市美浜区の幕張メッセ国際展示場9ホールで開催された。(主催：鉄筋EXPO実行員会、共催：全国鉄筋工事業協会、全国圧接業協同組合連合会、普通鋼電炉工業協会)

「鉄筋に係わるすべての人に、鉄筋に関するすべてを発信」という開催目的のもと、鉄筋業界の未来創造のために、日本の技術を国内はもとより、海外に発信する世界初の鉄筋博覧会となった。約130の企業や団体「鉄筋コンクリート用棒鋼／丸鋼・異形棒鋼、鉄筋継手、溶接金網、住宅基礎関連、コンクリート二次製品、建築金物、鋼材商社、総合建設、ハウスメーカー、鉄筋加工機、鋼材加工機(メタルソー・バンドソー)、スパーサー、電動工具、積算ソフト、クレーン、作業服、保安用品、現場ツール、レンタル・リース、溶接技術・工法、検査機器、金融、専門誌他」がブースを設置し、鉄筋に関する最先端の国内技術・サービスを展示、実演を行った。

■ 巨大鉄筋モニュメント

会場内でひときわ目を引いたのは、縦横各17メートル、最高高さ5メートルの巨大鉄筋モニュメント。鉄筋メーカーと継手メーカーが資材を協賛し、圧接工事会社の協力のもと、協同組合東京鉄筋工業協会所属の鉄筋工30名超が集結し、11月22日の昼から未明にかけて、モニュメントを組みあげた。組立に参加した職人たちは、深夜までの作業にも関わらず、達成感と満足感に満ちたいい表情をしていた。

■ シンポジウム

「鉄筋EXPO2017」は、開催日毎に企画コンテンツが用意されており、初日の24日は「鉄筋の現在と未来」～これからの10年を見据えて～というテーマでシンポジウムが開催された。コーディネーター役である千葉大学大学院和泉教授の「鉄筋工事の動向」を皮切りに、鉄筋メーカー、設計、総合建設業、鉄筋工事業、継手工事業、検査業がそれぞれの立場から、「鉄筋の現状と未来」を提示。その後、会場の参加者も交えて、生産性の向上や品質保証という観点でディスカッションが行われた。最後に、鉄筋EXPO実行委員長の館岡氏より、今後もこのような縦断的な会合を開催し続けていくとの宣言があり、シンポジウムは大盛況で閉会した。

■ TETSU-1 GRAND PRIX

2日目の25日は第2回鉄筋技能大会『TETSU-1 GRANDPRIX』が開催され、日本全国のブロック予選を勝ち抜いた精鋭37名が頂点を目指し、日

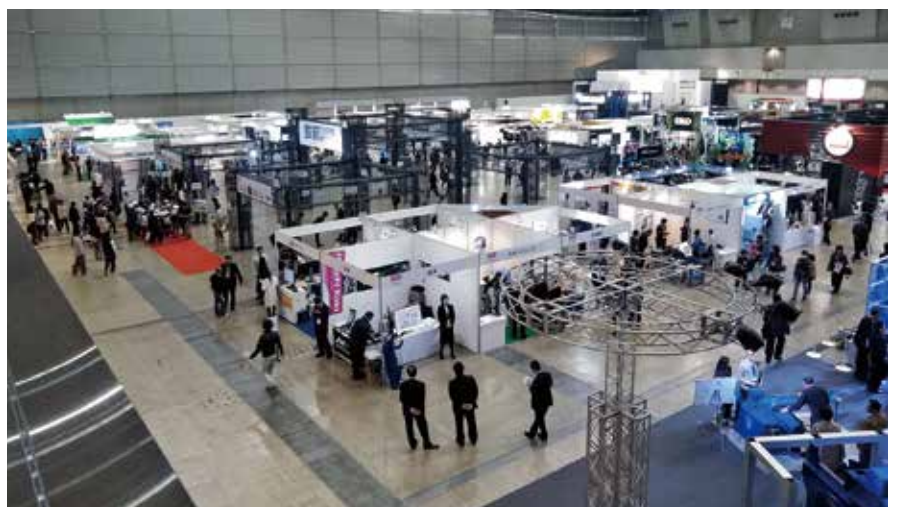
ごろの技術を競った。競技は、ベース、柱、梁の組立作業を制限時間内に行い、そのスピードと精度を採点する形で実施され、見事、グランプリに輝いたのは関西代表の谷口圭氏、2位には静岡代表の立野匡昭氏、3位には新潟県代表の渡辺博一氏が入った。優勝者の谷口氏は「これからも魂を込めて結束します」と喜びを語った。

■ 参加型イベント

最終日の26日は日曜日、家族連れも楽しめる参加型のイベントが多く企画された。3日間の開催中に展示されていた「鉄筋ART展」。美術系大学や専門学校の学生がデザインしたものを鉄筋工事業者が加工し、組み上げた作品が展示され、来場者による投票と公開審査を経て、多摩美術大学の学生による「綱引きの瞬間」が大賞、EXPO賞、技術賞と賞を総なめにした。工業高校生3人組6チームが参加した「高校生鉄筋クイズバトル」。鉄筋業界人なら常識の問題から難問・奇問・珍問が飛び出したクイズバトル、白熱した戦いを制したのは、千葉県立京葉工業高校チーム。また、出展各社が出品する「鉄筋業界マル得チャリティーオークション」も行われ、鉄筋加工機など200万円近い金額で落札される商品もあり、総額250万円が日本赤十字を通じて、熊本地震の復興支援に寄付された。

EXPOの最後を盛り上げたのはスラブ筋の結束スピードを4人1組で競う「鉄筋結束リレー選手権」。午前中に行われた35組の予選を勝ち抜いた4チームが決勝トーナメントに進んだ。白熱した戦いを制したのは、駒井ワン(神奈川)。気合と根性で優勝を勝ち取った。

鉄筋EXPO2017を通じ、未来を少し垣間見たように感じると同時に、改めて人と人とのつながりの大切さや職人を育成することが重要性を認識する3日間となった。



会長あいさつ

「職人たちが未来予想図の描ける業界へ！」
「来てほしい業界から、入りたい業界へ！」
をめざして邁進して参ります。

公益社団法人全国鉄筋工事業協会
会長 岩田 正吾 (平成29年12月 1 日就任)



(公社) 全国鉄筋工事業協会（略称:全鉄筋）は、1965年に全国鉄筋業協同組合連合会として建設省（現・国土交通省）から認可をいただき、1986年に社団法人全国鉄筋工事業協会、2012年には専門工事業団体では初めて公益社団法人の認可を受け、公益社団法人全国鉄筋工事業協会へと改組し、公益目的の事業活動を幅広く展開しています。

設立後半世紀を超える歴史の中で、全鉄筋は技能検定制度や鉄筋施工マニュアルの作成、外国人技能実習生受入事業、登録鉄筋基幹技能者の認定講習会の開催と資格証の付与、鉄筋工事標準見積書の作成など様々な取り組みを行ってまいりました。

現在、建設業界における問題は、人材の確保です。

国家レベルの問題といっても過言ではない、少子・高齢化社会、人口減少の進展から人口構成は、昭和の高度成長期とは全く異なる人口構成になってきています。それに伴い労働人口の激減が予測され、建設技能労働者数も20年程度で半減すると見込まれています。こうした状況から今後、全産業間において労働力確保競争の激化する中、若者たちは処遇改善の遅れている建設業界には目を向けてくれないということになるでしょう。

そのため、建設業界全体の取り組みとしては、ICT化、ロボット化などが加速すると思われますが、鉄筋工事においては大部分を職人の手作業に依存している状況が大きく変わることはないと思います。地震大国の我が国において、安全で、安心な建物づくりに最も重要な役割を果たしている鉄筋工事が、その「役割を果たし続けるためには、優秀な職人が必要不可欠です。

建設ものづくりの原点は「人」です。しかしながら、人材の確保・育成には「時間」や「コスト」もかかります。このような現実を踏まえ、これからの全鉄筋は、若年労働者確保のため「3Kなのに低賃金」から「3Kだから高収入」を目指して、若者たちの理解を得るための広報活動を積極的に展開してまいります。

そして、

「職人たちが未来予想図の描ける業界へ！」
「来てほしい業界から、入りたい業界へ！」
をめざして邁進して参ります。

今後も皆様のご指導、ご支援を心よりお願い申し上げます。

編集後記

皆様には新年を迎え健やかに過ごすごの
ことと存じます。

全鉄筋では昨年大きな出来事が重なった年でした。昨年10月の内山会長の急逝は我々にとって大きな悲しみであり改めてご冥福をお祈りするとともに、今後は加盟各団体が一致結束して故人の遺志を引き継ぎ業界の発展を目指していきたいと考えています。11月には鉄筋業界に関わる様々な技術・工法や製品などを紹介する世界初の総合展示会「鉄筋EXPO（エキスポ）2017」が、幕張メッセで3日間にわたり開催されました。鉄筋工事業や電炉、流通・加工業、工具メーカーなど約130社・団体が出展したほか、シンポジウムや鉄筋技能大会などのイベントが行われ多くの来場者で賑わいました。同展のメイン行事として行われた「第2回全国鉄筋技能大会」(TETSU-1グランプリ)には各地の予選を勝ち抜いた精鋭37選手が参加し、「最強鉄筋工」の称号を目指してプロの職人技を競い合いました。熱戦の結果、関西代表の谷口圭選手(富田興業)が優勝の栄冠を手に入れました。そして12月1日付けで全鉄筋の新会長に岩田正吾・関西鉄筋工業協同組合理事長が就任しました。就任記者会見で岩田新会長は「若い人材の前進力と先人の知恵を融合した組織力の強化を図り、人材確保や技能労働者の処遇改善等の課題に向き合い、未来予想図の描ける専門工事業へと牽引していく」と力強く決意を述べています。最後に、今年1年が皆様にとって良い年となるよう願っています。

田浦 真一

編集委員

委員長 篠森 義晴 (福岡)
委員 宮本ゆり子 (山口)
木浪 裕子 (北海道)
工藤 桂一 (神奈川)
國井 均 (静岡)
田浦 真一 (関西)
古澤 英樹 (福岡)